

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年6月10日

学校法人 ひかりの子学園 ひかりの子幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- キリスト教の理念に則り、子ども一人ひとりには神さまから愛されているかけがえのない尊い存在と捉えます。
- 自由保育を基本とし、自分と他者を互いに愛すること、子どもたちの主体性を尊重することなど、共に生きることを通じた幼児期の心身の成長を見守り支えます。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

こども園教育、保育要領の改訂を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせ、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育の実践を目指す。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

No.	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育の質の向上のために園内研修を充実させる	B	外部研修の中止やオンラインに変更となる中、園内でキンダーカウンセリングの先生から事例検討会を3回実施、また外部講師を招き、子どもの発達の様子や遊びを見る目を養うための研修を3回行いました。またキリスト教保育連盟の新任研修はzoomを用いて、自宅等で分散して研修を受けるなどある程度研修を充実させることができました。
2	学期ごとに各クラスの運営の成果と課題を報告する	B	各クラスでの月、週目標を定め、毎月その様子を報告・共有しています。写真やエピソードを通して、活動のねらいや子どもの成長を語り合う時間を積極的に持ちました。その結果、保育者同士が刺激を受け合い、また足りないところを補い合うなど、子どもの育ちを園全体に共有する土壌が育ってきました。決められたカリキュラムだけではなく「今クラスでは」の視点で子どもの興味、関心を保育者が引き出し、繋げることを心掛けています。
3	各研修会や研究会に積極的に参加して職員に提供する	B	可能な限り研修は全職員で参加するようにし、共通認識が持てるようにしています。また少人数で参加した場合、発表等で共有化を図るように努めています。継続して受けている兵庫教育大学の鈴木先生の研修では「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のうち「クラスで何が育ったか」の視点で1年を振り返ることができ、それをzoomクラス懇談で保護者に伝えました。
4	園だよりやクラスだよりを通し園内の情報を発信している	A	コロナ禍で保護者がクラスの活動を見る機会が激減したため、クラスの活動のねらいを情報発信するため、クラスだより、園長通信に加え、インスタグラム、ドキュメンテーション、ホームページなどのICTツールを積極的に活用しました。その中で活動の意図や子どもの育ちを中心に発信することを心掛け、目に見える結果より、見えない過程や失敗の中にこそ大切な子どもの心の成長や発達があるという保護者理解に繋がられました。
5	保護者のニーズや把握に努め、要望などに適切に対応している	B	保護者との個人懇談会、またzoomによるクラス懇談会を実施し、幼稚園と家庭が信頼し、協力関係が図ることができるよう取り組んでいます。また学校評価アンケートを実施し、集計結果を保護者に公開しました。また園の保育理念や取り組み、財務情報について、ホームページにて情報開示するように取り組んでいます。その結果、保護者の思いや要望など知ることができ、コロナ禍ではありますが、保護者と園の繋がり方を改めて再考する機会となりました。来年度は1学期にzoomクラス懇談を行う予定です。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>評価項目について、重点的に取り組んだ結果、一人ひとりを大切にした教育を実践することができました。来年度に向けて、年度末に職員全員でKPT法、田の字法を行いました。個人のKPT法では1年間振り返って良かったこと、努力したこと、来年度に向けて自分の課題や挑戦したいことを一人ひとりが発表し、また田の字法では「自園のいま、ここ」を共有しました。教員が自園に何を求め、保育の質向上に向けて課題を明らかにし、議論を重ねていく前提として、共に積極的に課題に取り組んでいく共有感を持つ議論の場となりました。</p> <p>その結果として「異年齢交流」「情報発信の工夫」「研修の重要性：特に自由遊び、発達障がいへの理解」「職員間のコミュニケーション」「仕事の軽減化」の課題があげられました。課題解決に向け、更なる保育の質の向上のために個人、また園として取り組んでいけるように来期の計画を十分に練りたいと考えています。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 5. 今後取り組む課題

No.	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	旧園舎リフォーム、森の大型遊具に続き、新園舎のトイレ改修、ホールの屋根改修など子どもたちが快適に過ごせる環境を整える。また園庭、室内の保育環境について話し合い、遊びが充実するように、幼児の発達に沿った、楽しい経験ができる保育室の環境の構成に取り組む。
2	安全管理	安全に遊ぶために安全委員会を設置し、月に1回職員全員で園庭、遊具の安全点検を行う。ヒヤリハットノートを作り、危機管理マニュアルなどを職員間で共通理解し、意識向上やマニュアルの改善を図る。
3	支援教育	個別の指導計画の作成を検討するとともに、保育にあたる職員や加配職員の専門研修、理解の共有などに努める。クラスにいる自分とは違う他者に対して、多様性を認め合い、障がいのある子とない子がともに学ぶインクルーシブ教育を実践していく。
4	異年齢交流	異年齢で育ちあうことの重要性を鑑み、1年を通して異年齢交流の機会を増やしていく。例えば「森の委員会活動」を通じて年長児が「森のルール」を話し合い、年少児にどう伝えるかなど、主体的にかかわっていく活動を前年度に引き続き行う。
5	情報発信	地域や保護者に向けて、ホームページやインスタを活用し、今後も園が大切にしている保育方針を知ってもらうための工夫や努力をしていく。
6	職員研修	コロナ禍で対面集合の研修が激減している中で、オンライン研修を積極的に活用して新任、中堅、主任、管理職など職責にふさわしい研修を計画し、人材育成を目指す。また継続的に指導を受けている外部講師を園に招く予定。
7	仕事の軽減化	職員が定時退勤できるように、終礼の開始時間を早めた。また月末に仕事が重なって、残業や持ち帰りの仕事に繋がることから、シールノートの返却は月末、クラスだよりは月初め、ドキュメンテーション配布は月1回フリーに変更した。また年度末の保育家具や私物の小物の引っ越し作業を軽減化するため、保育室の備品などをできる限り共有化を図る。

## 6.学校関係者の評価

教育目標に沿った取り組み状況は概ね妥当と評価できる。今後の取り組み課題に加えて、以下の意見について可能な範囲で実践して頂ければと思う。一人ひとりの幼児を大切にされた質の高い教育を深化させて頂くことを期待し、今後も園の成長を確認していきたい。

- 小学校進学不安を抱えている保護者が多いと思われるので、近隣小学校とリモートで交流したことなどは、在園の保護者に意識して周知することが必要と思われる。
- 保護者アンケートの回収率をもっと上げることが出来れば良いと思う。
- 保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、今後も繰り返し行うことで、蓄積され、育成され、将来につながる。改善を繰り返し良いものを継続することが望ましいと思われる。
- コロナ禍で教会と幼稚園の交流が無く、寂しく思っている。「森の委員会」などの園児の主体性を養う取り組みは、素晴らしいと思った。継続して引きついで行ってもらえれば思う。
- 「森の委員会」について、小学校に繋がる経験である。昔から何かあれば園で話し合う機会があった。子どもたちも責任感を持てるようになり、年長が引っ張っていかねばという気持ちにもなる。とても良い取り組みだと思う。
- 森の遊具について、生えている木をそのまま活かしていることなど小さな事、細かいところまで皆に伝われば良いと思う。ちょっとしたことも発信された方が良いと思う。
- 小学校での保護者アンケートは、クラスや氏名の記入し提出することになっている。幼稚園のこのやりの方が良いが、どうしたら集まるのか次回は工夫が必要と思われる。
- 小学校は学校評価アンケートと先生ごとのアンケートがある。自由記述については、問題があれば保護者が言ってこられるので、アンケートとしては必要ないと思う。
- 「森の委員会」で子どもたちが文字を書いている姿を見て、文字を読み書きする機会を持たないよう、あえてしていたと記憶している。文字を書くことがダメなのではなく、まだできない子もいる中、対応方針を検討されたいと思う。教育目標と照らし合わせフォローの在り方の検討も必要と思われる。

## 7.財務状況

監事監査及び公認会計士により、事業活動及び計算書類は適正に表示している主旨の監査報告を受領しています。